



特集

取材・清水 高
山田清志
関根利子

来年気になる カタカナ用語集

10年ちょっと前には「インターネットって何だ？」なんてときもあった。でも、耳慣れないカタカナ用語の普及によって、日本が大きく変わってきたのは事実。今号では、注目の「IT」「就労」「環境」「経営」「観光」の分野から、来年の日本にとって重要なキーワードを追ってみた。

IT ツイッター

米国のTwitter社が提供するコミュニケーションサービス。名称は「小鳥のさえずり」という意味で、日本では「つぶやき」と呼ばれている。ユーザーは140文字以内でつぶやきを投稿したり、他ユーザーの投稿を閲覧したりすることができるので、双方向のコミュニケーションが発生する。

ビジネスシーンでも大いに応用できるのである。現に日本でも昨年あたりから企業の参入が増え、活用さ

れ始めている。広報やPRツールとして利用するところ、自社製品やイベントなどの案内に使うところ、消費者の声を集めて商品の開発や企画に生かそうとするところ、と活用法もさまざま。しかしながら、すべてがうまく使いこなされているとはいえない。そんな中、独自の活用方法で店の知名度アップと顧客獲得に結び付け

ことしの春の時点で日本でのツイッター利用者が約1000万人となり、その後も増え続けている。気軽に「つぶやく」ことで多くの人とつながり、さまざまな情報をリアルタイムで取得できることから、ビジネスの分野でも活用に乗り出す企業が増えている。しかし、それには目的やターゲット、活用方法などが、ツイッター利用層とマッチしているかを見極めることが大切。そこで、ここでは国内の飲食店関係者の中でその活用に最も成功したといわれている豚肉料理店「豚組」の事例を基に、ツイッターの活用方法を紹介する。

「つぶやき」でつながる コミュニケーションツール

今日よく耳にするツイッター。現在、利用者が爆発的に増えている一方で、「よく分からない」「使ったことがない」という人も多いのではないだろうか。

ツイッターの仕組みを簡単に説明すると、次の通り。各ユーザーは140文字以内で「つぶやき(ツイート)」を投稿すると、それが自分専用のサイトに表示される。そのサイトには自分の投稿とともに、あらかじめ「フォロー」している他ユーザーの投稿も時系列に表示される(タイムライン)。つまり、フォローしたり、フォローされたりしながら、お互いのつぶやきを共有することができるのだ。さらに、つぶやきは「フォロワー」全員にリアルタイムで届けられる。それに「リプライ(返信)」したり、「ダイレクトメッセージ(DM)」を送ったり、「リツイート(RT)」という機能を使って引用・転載することもできる。このようにして、ユーザー同士がつながり、コミュニケーションが生まれる。以上のような仕組みから、ツイッターには「つながる力」「情報収集力」「速報性」などのメリットがあり、単に趣味として楽しむだけでなく、

twitter用語集

文中の*の付いた言葉は
下記を参照

【つぶやき(ツイート)】 ツイッターへ投稿を行うこと、またはその内容。文字数は140字以内に制限されている。

【フォロー】 ほかのユーザーを登録して、その人の投稿を自分のタイムラインに表示して読むこと。

【タイムライン】 自分の投稿や、自分が登録しているほかのユーザーの投稿は時系列で表示される。そのツイートの流れのこと。

【フォロワー】 自分をフォローしている他のユーザーのこと。

【リプライ(返信)】 ほかのユーザーあての投稿のこと。「@アカウント名 投稿したい内容」で投稿すると、そのユーザー向けの返信扱いとなる。その内容は第三者にも公開されている。

【ダイレクトメッセージ(DM)】 自分をフォローしているユーザーだけに送ることができるメッセージで、内容は当事者にしか見えない。

【リツイート(RT)】 ほかのユーザーのツイートを引用して投稿すること。

【アカウント】 自分のユーザー名。タイムライン上では「@アカウント」で表記される。

【なう】 「今何をしているか」を現在進行形で伝える表現。「場所+なう」だと「今ここにいる」という意味。